

鬼怒川漁協_解禁日の釣れ具合とカワシオグサ被度

2024年6月4日
栃木県水産試験場

調査日 | 2024年5月22日（潜水調査）
5月26日（解禁日聞き取り調査）

調査場所 | 鬼怒川（東北新幹線下流～中妻オトリ下流）

調査内容及び方法

- 5/22 | 潜水調査から
 - 幅2m流程100mあたりのアユ目視尾数
 - カワシオグサ（青ノロ）被度を算出
- 5/26 | 各地点での聞き取り調査から
 - 一人一時間当たりの平均釣れ具合を算出

調査結果

○潜水調査（11地点）と聞き取り調査（9地点）、両方のデータが得られたのは6地点でした。

表1 調査結果の一覧

No.	場所	潜水調査（5/22）		聞き取り調査（5/26）
		幅2m流程100mあたりのアユ目視尾数（尾）	カワシオグサ被度（%）	解禁日の釣れ具合（尾/人・時間）
1	阿久津大橋上流	4	16	0.58
2	JR鉄橋上流	12	68	0.53
3	柳田大橋上流	39	6	3.34
4	鬼怒橋上流	57	61	1.81
5	サッカー場前	28	34	1.34
6	中妻オトリ下流	34	44	1.69

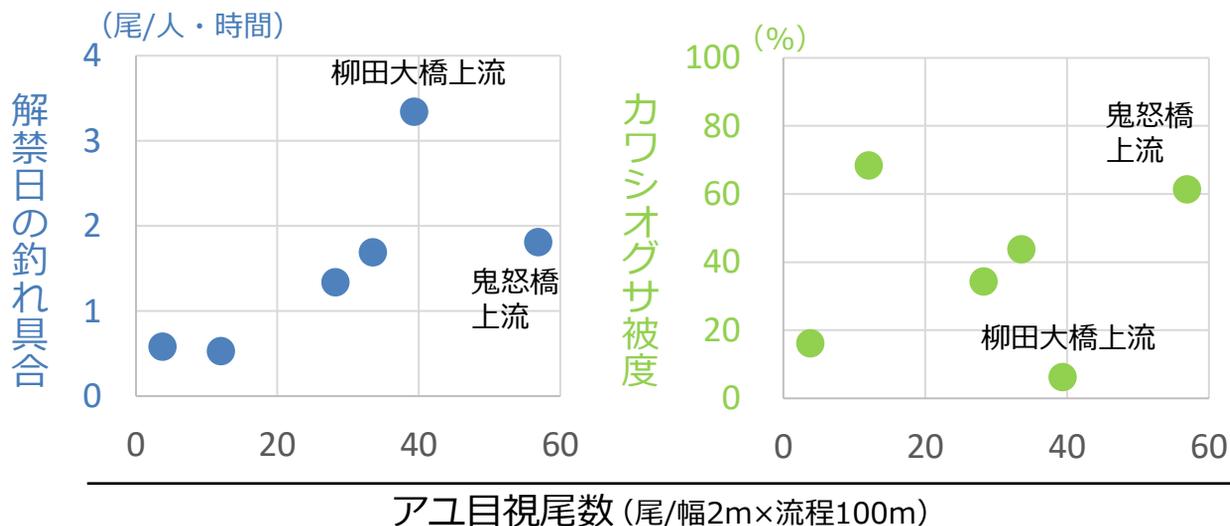


図1 幅2m流程100mあたりのアユ目視尾数と解禁日の釣れ具合、カワシオグサ被度の関係

- アユ目視尾数が多いほど、解禁日の釣れ具合は良くなる傾向が見られました。これは、アユ目視尾数が多い場所ほどアユの生息密度が高いためと考えられます。
- カワシオグサ被度とアユ目視尾数には一貫した傾向は見られませんでした。つまり、カワシオグサが多くてもアユが多い場所もありました。
- カワシオグサの繁茂が漁獲に及ぼす影響について解析したところ、解禁日の釣れ具合は、アユ目視尾数が多いほど良く、カワシオグサ被度が高いほど悪くなる傾向（被度が10%高いと釣れ具合が16%低下）が見られました。

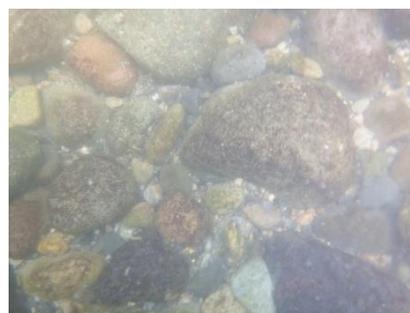
少ないデータ数からの解析結果ではありますが、カワシオグサの繁茂は解禁日の釣れ具合へ悪影響を与えていたと考えられます。

【回帰分析の結果 ($r^2=0.70$)】

応答変数	従属変数	係数	p値
解禁日の釣れ具合	幅2m流程100mあたりのアユ目視尾数	1.278	0.0485
	カワシオグサ被度	-0.0254	0.0914
	切片	1.278	



鬼怒橋上流の河床のようす (5/22)



柳田大橋上流の河床のようす (5/22)